

〔有馬山温泉記〕凡此地の温泉は、天下にすぐれたる名湯なり、病に應ずれば甚妙效あり、いづれの温泉にも、浴せんとせば、先其病症に、湯治の相應すると相應せざるとをよく考ふべし、この湯は、相應の病なれば甚まるしあり、手足なへまびれ、筋骨ひきつりのべか、めかなひがたく、脚氣の病、高き所よりおち、或落馬し、おしにうたれ、一切の打身、金瘡の愈かぬるによし、皮はだへの病、すべて外症によし、又寒冷の病によし、此等の病に浴すれば大に効あり、他の湯にまされり、氣血不順の症、腹中の滯にも、かろく浴しあた、めて、氣をめぐらすべし、然れども内症の病には應せず、浴すべからず、邪熱虚熱ある人には、はなはだあし、病をそへてあやうきにいたる、必つ、しみて浴すべからず、世上に病症をえらばずして、何の病にもよからんとて入湯する人あり、はなはだあやまれり、相應の病症にあらずば入湯すべからず、益なきのみならず害有、又浴して何の害あるしもなく、又害もなき症あり、かくのごとくの症には、浴する事無益なり、およそ浴して益あると害あると、益も害もなきと、此三の病症あり、よくくゝゑらぶべし、害有症と益なき病には入湯すべからず、

〔熱海温泉圖彙〕温泉主治

熱海の温泉は、關東第一の名湯なれど、半ば遊山の地とのみ聞て、其機能を詳にせざる人多ければ、其功驗をこゝに記す、中風にて手足まびれて、歩行心にまかせざるに妙也、眼病、かすみ目たゞれ目の類は、七日入湯して目をあらへば治する事妙也、腰の痛、脚氣、筋攣、打身、折傷、諸の蟲、寸白、痔、脱肛、淋病、せうかち喘息、婦人腰の冷、懷妊せざる人、氣虚、血損、齒の痛、はのゆるぐには、此腫物、をふくめば妙也、金瘡、此湯に入れば、初は其毒をはつし、その、ち全く愈る事妙也、右いづれも醫療を盡してゑるしなきに妙也、けだし水腫、腹滿、癩病は、此湯を禁べし、湯に入る間、房事をつゝ、まざれば、きゝ、みちおそかるべし、